

令和6年度（2024年度） 第2回熊本地域公共交通活性化協議会 利用促進部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和7年（2025年）3月14日（金）
午後14時00分～午後15時15分
2. 場 所：熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール第9会議室

II 主な内容

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

（1）バス・電車無料の日、バス・電車100円ウィークの結果報告について
（事務局）

- ・ 資料1、2を用いて説明

（部会長）

- ・ ただいまの説明に関して何かご意見・ご質問はないか。

（委員）

- ・ 12月21日のバス・電車無料の日に、深夜の乗合タクシーの利用者が極端に少なかったと聞いている。おそらく、終電、終バスまでに帰る方が多かったことが原因と思われる。
- ・ 深夜帯に公共交通があることで、繁華街の売上にも影響が出てくると思われるので、無料の日などに合わせてでも、深夜便等の運行を検討していただきたい。

（委員）

- ・ バスや市電の最終便の時間帯が早いので、それ以降の時間になってしまうと帰れなくなる。イベントが実施される際や金曜日や土曜日には深夜便を運行してもらいたいと市議会でも要請したところ。深夜帯は、割増運賃でも乗車される方は多いと思われるので、収益の増加にもつながるので、ぜひ深夜便の運行を検討してもらいたい。

（事務局）

- ・ 深夜便について、無料の日のイベントに合わせた運行も1つのアイデアかと思うが、特定のイベント的というよりもむしろ、そういった移動手段がしっかりと確保されているという前提があったほうが利用者は安心感があると思う。
- ・ 一方で、顕在化している運転士不足の状況を、検討するうえで1つ大きいポイントになってくると思う。

- ・ 今回いただいたご意見について、利用促進にも繋がる1つの大きな要素になってくるかと思うので、まずは事業者と話し合いをさせていただきたいと思う。

(部会長)

- ・ アンケートからわかるように、割引よりも終電を遅くしてほしいとニーズがあった。
- ・ 深夜便の増加や運転士確保、バスレーンなどすぐできるものではないが、しっかり取り組むことが重要と考えている。

(委員)

- ・ 先ほども話に出ている運転士不足の問題というのは根底にある。昨年4月に改正された2024年問題で、9時間から8時間のインターバルが非常に重く、その中での運転手不足が根底にあるが、その中でもやはり中心部の活性化であったりとか、熊本市が進めているウォークアブルシティーであったりいろんな構想に寄り添っていくということを考えると、バス事業者だけではなく、タクシー協会なども含めて、一緒にこのような問題に対して対処していく必要があると思う。様々な観点で検証していきながら、利便性が高いものにしていかないといけないと思っている。

(委員)

- ・ この事業の数字をみると、対象期間中にせっかく公共交通にシフトしているが、定着はしていない状況と推測される。
- ・ 100円ウィークはこの1回限りの実施か。

(事務局)

- ・ この1回限りと考えている。

(委員)

- ・ 100円ウィークで見てきた課題や今度どのような利用促進を実施するか重要だと思うが、この事業の総括をお願いしたい。

(事務局)

- ・ 100円ウィークよりも無料の日はピンポイントなので、少しその効果分析っていうのもまた違う見方になってくるかと思っている。
- ・ 1週間という短い期間ではあったが、平日と休日の日常の中での変化が見てとれたのかと思う。平日はさほど変化はないというような状況であるが、休日は変化が見られた。特に定期と定期外を比較すると、定期外は伸びが見て取れる。定期券は平日では、通勤・通学といった日常的な移動手段として活用されるという方々が多いと思われるので、100円ウィーク期間に数字変化が見えなかったと思う。
- ・ 一方で定期外については、100円ウィークだから利用が伸びたということであれば、料金施策とまではいかないにせよ、安価な料金で移動しようというきっかけづくりにはなったと思う。安価な

料金が利用増加の誘発要因としてあるのではないかと考えている。

- ・ ただ、委員おっしゃる通り、その後の利用定着という部分については、安価な料金だけをもって、利用定着が保たれるかという点、そこはまた少し違うと思っている。
- ・ 無料の日や 100 円ウィークのアンケートの結果では、一番多い意見として、増便や待合環境改善、定時性の向上など、公共交通を利用しやすくなるものとして何が必要かというのが、ここで見てとれるのかなと思っている。
- ・ この中にはすぐできること、少し時間を要することが見て取れようかというふうに思うので、ここで得られた結果を、どのようにしていくと公共交通を利用したい、利用できる環境が整備されていくかというものの 1 つの材料として、検討を深めていきたいというふうに考えている。

(部会長)

- ・ 考え方によっては、無料の日でも 100 円ウィークでも利用者の増加はあまり変わらないかもしれない。あと、長距離にやはり効果があると思う。佐俣の湯だけであれば、収入上がっているはず。休日に運賃が高いところに料金施策を実施することで効果があるかもしれない。一方で、平日は限界があるというのは分からなくもないが、今後、定期の割引の話も検討してもいいかもしれない。
- ・ ある意味社会実験的な話ではあると思うので、今後の施策に活かしていければいいと思う。

(委員)

- ・ 昔はノーマイカーデーを実施していたが、やめてしまった。
- ・ 渋滞を減らす施策としても何か広報手段を工夫すればもっと参加する人もいると思う。

(部会長)

- ・ ノーマイカーデーとか、いろんな他の施策との組み合わせでこういった割引がより効果的になるのかなと思う。例えば今後もバス専用レーンが増えるタイミングと同時にその区間だけ割り引くなど、他の施策と組み合わせて料金を下げるっていうことも選択肢としてあると思う。

(委員)

- ・ 商工会議所の方で、今年の 2 月に交通渋滞解消に向けた通勤施策についてアンケート調査を行った。
- ・ 現在、県市でも取り組まれている時差出勤を実施しているかの質問に対して、現在取組を実施しているという回答が 16%、今後予定しているという回答が 7%、取組予定がないという回答が 60%。
- ・ 通勤手段に関する質問に対しては、自家用車が 73%、公共交通が 9.3%、バイク・自転車が 9.5%となっている。
- ・ いろいろご意見等もお聞きすると、やはり従業員が少ない事業所ほど、勤務体系が柔軟な対応が難しい。業種でみると、建設業だと現場に直行されるパターンも多く、会社全体での渋滞解消の取組を実施が難しい状況。あと、一番多かった意見として、そもそも公共交通が充実していないと、利用することができないという意見が多かった。

(部会長)

- ・ このようないろんなアンケート結果の情報を踏まえ、公共交通をいろんな方に利用してもらって便利にしていくことで、悪循環を好循環に変えて、公共交通を少しずつでも盛り上げていくことがすごく重要だと改めて感じた。

(2) まちなかフリーパスについて

(事務局)

- ・ 資料3を用いて説明

(部会長)

- ・ 3点確認したい。1点目がまちなかフリーパスは市電も対象か。2点目が半額パスと販売期間が被っていることで影響があったと思われるが、どう考えているか。3点目が割引した分は行政が補填しているのか。

(事務局)

- ・ 1点目については、市電は対象ではない。2点目については、半額パスは10月から始まっており、4ヶ月間は時期が被っており、影響はあったと考えている。3点目については、割引分は市が補填している。

(部会長)

- ・ 様々な経緯があると思うが、現状乗車券が乱立している状況。利用者目線ではどうなのかなと思うが、利用者にとって使いやすい仕組みを作ることが重要。
- ・ 将来的に市電を対象にすることは簡単ではないのか。

(事務局)

- ・ 技術的には可能であるが、市電の1日乗車券では、対象エリアがまちなかフリーパスの対象エリアを越えているので、その券種との差別化も検討の1つにはなってくるかと思うので、少し時間を要すると思う。

(部会長)

- ・ 将来的にはどのようなチケット体系にするかも関連してくる話だと思う。
- ・ 今回、まちなかフリーパスの利用方法をQR認証に切り替えることで運転士の負担も少なくなる。また、施設割引があることでいわゆるMaaSみたいな感じで色々展開もできるかと思う。

(委員)

- ・ まちなかフリーパスの利用用途は。

(事務局)

- ・ まちなかフリーパスの購入者以外に子ども2名まで対象となるサービスなので、子どもを連れて中心部にお買い物される方が多いと思う。

(部会長)

- ・ 色んなアイデアを出して、子育て支援になればいいと思うし、子どものうちから公共交通に慣れてもらうための展開を考えていければと思う。

(委員)

- ・ ターゲットが絞られれば、効果的な周知広報も可能だと思う。

(委員)

- ・ 今日はバス利用して来て、その際にタッチ決済したが、決済機器にカメラが見当たらなかったが、どこで読み込むのか。

(事務局)

- ・ タッチされた機器の上に、端末がついており、そこで読み込ませる。

(委員)

- ・ アンケートで利用方法が分かりにくい声が上がっているが、利用方法等はどのように周知しているのか。

(事務局)

- ・ チラシやホームページ等で案内している。チラシの裏面に180円均一エリアを掲載しており、アプリでは路線図を掲載しており、どこかの停留所が対象か分かるようになっている。

(3) ICリプレイス

(事務局)

- ・ 資料4を用いて説明

(委員)

- ・ 当初の計画では、全国交通系ICカードが12月に廃止で、タッチ決済開始が3月からとなっていたが、1ヶ月ぐらい前倒しになり、そのアナウンスが1ヵ月前にあったが、その経緯を教えてください。

(事務局)

- ・ バス事業者におかれては、機器入替の準備や入替後の稼働試験など、様々な工程がある中で当初ス

スケジュールを進めている中で、少しずつスケジュールが前倒しになったという経緯はあるのではないかと推察される。

(部会長)

- ・ 前倒しになったこと等についてご意見があればアンケート調査の最後の自由記述欄に書いていただくという取扱いになると思う。

(委員)

- ・ これまで大西市長は、アンケートの結果などを踏まえ、総合的に判断するというような表現で話されていたかと思うが、これがそのアンケートに該当するのか。
- ・ 市民の方に意見を聞くとすれば、ICカードの方針についてストレートに聞けばいいと思う。別にアンケートを取るのであれば、そこで取ればいいと思うが、これのみということであれば、市電に関する質問を入れた方がいいと思う。質問は、いきなりタッチ決済について、聞いているだけなのでICカードについてもっと聞いた方がいい。

(事務局)

- ・ まず、アンケートの目的ですが、こちらのアンケートにも記載をしているとおり、2月24日にバス・電鉄電車の決済手段が大きく変更された状況。
- ・ 交通事業者と協力して進めていくべきものだと認識しているが、今後はいかにタッチ決済を浸透させていくか、定着させていくかが重要であると考え、このアンケート結果をもって諮りたいと思っている。

この設問の中に市電が登場するのはタッチ決済という手段を考えたときには、交通モードとしては市電も当然出てくるのはあるかと思う。

- ・ 今回、決済手段をどういうふうにしていくかという観点から見ると、タッチ決済は、今後トレンドになっていくっていうのを考えると、この情報というのは市電の今後の決済手段はどうしていくかを判断するための材料にはなるとは思っていますので、当然、市内部でも共有を図っていく予定。
- ・ 今後、市電の決済手段の方針をこのアンケート調査の結果のみで判断するかについては、今後、進めていく過程において、検討していくものと認識している。

(事務局)

- ・ 補足ですが、これまでの市長の大西から申し上げていたものとしては、事前の決済手段の検討にあたっては、先に始まるバスや電鉄電車の決済手段の動向を、それによって市民の皆様のお考えとか感じ方等見極めながら検討していきたいというような発言だったかと承知している。一連の決済手段をアンケートで決めますという発言は多分、これまでもしてこなかったものと思っている。
- ・ ただ、市民の意見をしっかりと伺いながら決めるべきだというのは当然のことだと思っており、その要素として、先に始まるバスや電鉄電車のタッチ決済に係る市民の皆様のご意見というものは、このアンケートで捉えたいということの趣旨がこのアンケート。
- ・ なので、このアンケート単独で意思決定をするというものはございませんし、だからといって、どう

いったもので意思決定するかというと、市議会での議論や当部会におけるご議論もそうだと思うっておりますし、そういった中で結果として、一番良いものはどういったものかというものを、いずれかのタイミングで判断するということになろうかと思う。

(委員)

- ・ 市民からすれば、IC カード方針についてはアンケートをやってほしいなと思っていると思うが、このアンケートに含めるか含めないかは別として、今後検討していただければと思う。

(部会長)

- ・ アンケート調査は費用がかかるのか。

(事務局)

- ・ かからない。

(円山部会長)

- ・ そうであれば、もう一度しっかりした方がいいと思う。
- ・ 正確な情報を提示したうえで、意思決定をするべきだと思う。市電の IC カード継続に、補助金が充てられる可能性が出てきた。ただ、まだ分からない状況で意見を聞いてもそのアンケート結果は参考にならないと思う。IC カードを使用し続けるためにはこれだけ税金を投入しないといけないがどう思うか、ということ聞く必要はあると思う。
- ・ まずはやってみることは大事だと思うが、これだけで意思決定の参考にするのは厳しいと思う。

(委員)

- ・ アンケート時期が4～5月となっているが、もう少し時期を遅らせてもいいのではないかと。利用が増加するのは4月からで緩やかに利用が伸びてくる。生活スタイルが変わり、新たに通学、通勤する方が増加し、タッチ決済の利用が増加することが見込まれるので、実施を遅らせた方がいいと思う。

(委員)

- ・ 今年6月にくまモン! Pay が始まると思うが、これが導入されれば決済手段も変わってくると思うので後ろ倒しにしてもいいと思う。

(部会長)

- ・ アンケート調査の内容について質問9.10は複数選択可、最も多い決済手段として聞いた方がいい。選択肢では、くまモンの IC カードは定期か定期外で分けた方がいい。
- ・ 質問14.15.16も複数選択か、最も近い内容を選んでもらった方がいい。
- ・ 県外から来られる人の意見も重要であり、どのような方法でこのアンケートを周知するかによるが、バス車内でお知らせすることも有効だと思う。

(委員)

- ・ システム変更等があった際には、可能な限りスピーディーに情報発信を行ってほしい。

(部会長)

- ・ 他にご意見ないか。
- ・ なければ、本日の議事はすべて終了とする。